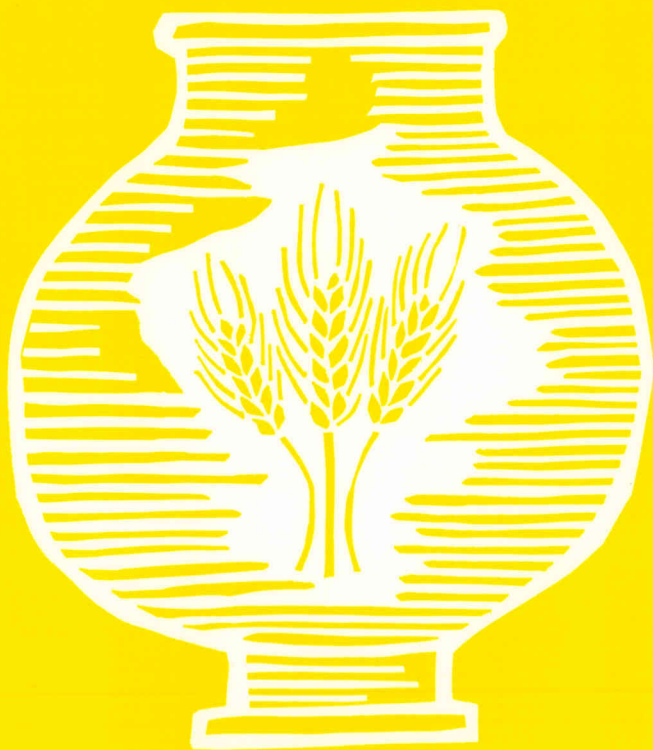


小教理問答書

マルティン・ルター著

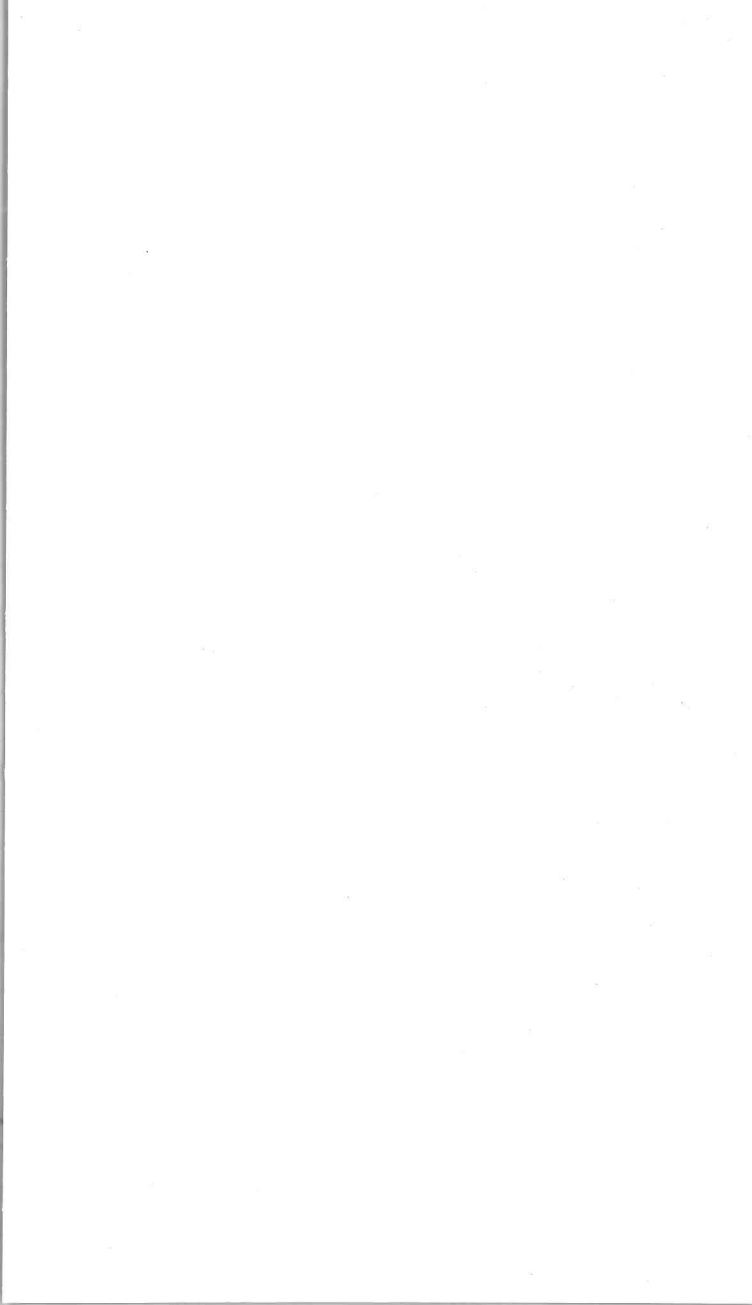


日本福音ルーテル教会

小教理問答書

マルティン・ルター著

日本福音ルーテル教会



訳者序文

ルターの『小教理問答書』は、世界のすべてのルーテル諸教会の、信仰の規準でありま
す。その形は小さく、文章は簡単ですが、意味はまことに深遠で、キリスト教文献の古典と
して、多くの教理問答書の中でも最もすぐれたものともいえます。

農民戦争のために荒れすたれた教会を再建するために、ザクセン侯の命によって、一五二
六年から二九年にわたって、改革者たちは数回その領土内の宗教状態を巡視しましたが、ル
ターもそのひとりでした。そのおりルターは、地方民はいうまでもなく、牧師たちまでが無
知無能であり、主の祈り、十戒、使徒信条をさえ唱えることができないうりさまを見て悲し
みにたえず、きわめて平易なことばで、キリスト教の要点を書いて、公にしなければならな
いと感じました。

巡視旅行から帰ると、彼はただちに筆をとって二つの教理問答書を書きました。その一つ
は牧師たちのための『大教理問答書』で、他は一家の主人がその家族に教えるための『小教
理問答書』です。

この『小教理問答書』が出版されたのは、一五二九年五月十六日のことでした。それ以来四百数十年の長い間、キリスト教のよき手引きとして、宗教教育のため、また一般伝道のために、各国で広く使用されてきました。

日本にもすでに数種の訳書が出版されていますが、一九五一年に全ルーテル協議会が結成され、文書委員があげられ、何よりもまず、子どもにもわかるような平易な文章で、『小教理問答書』を改訳出版することを決議し、私どもにその仕事がゆだねられました。それで子どもは非常な恐れと喜びとをもって、祈りのうちにこの仕事に着手しました。喜びとは、愛するルターの『小教理問答書』が、子どもにもわかるようなやさしいことばで訳出されるなら、きっと日本教化のために大いに役立つであろうと信じたからであり、恐れとは、私どもにはたしてそのような大任が全うできるかという心配があったからです。

翻訳にあたっては、次のような方針で仕事をすすめました。

一、訳稿のテキストとしては、Dr. Martin Luthers Kleiner Katechismus, Göttingen Ausgabe を用い、他のドイツ語版、諸種の英語訳および日本語訳など日本語訳などを参考にする。

二、聖書や信条は、当用漢字ならびに現代かなづかいに改めること。

三、文体はできるだけやさしい口語体を用いること。

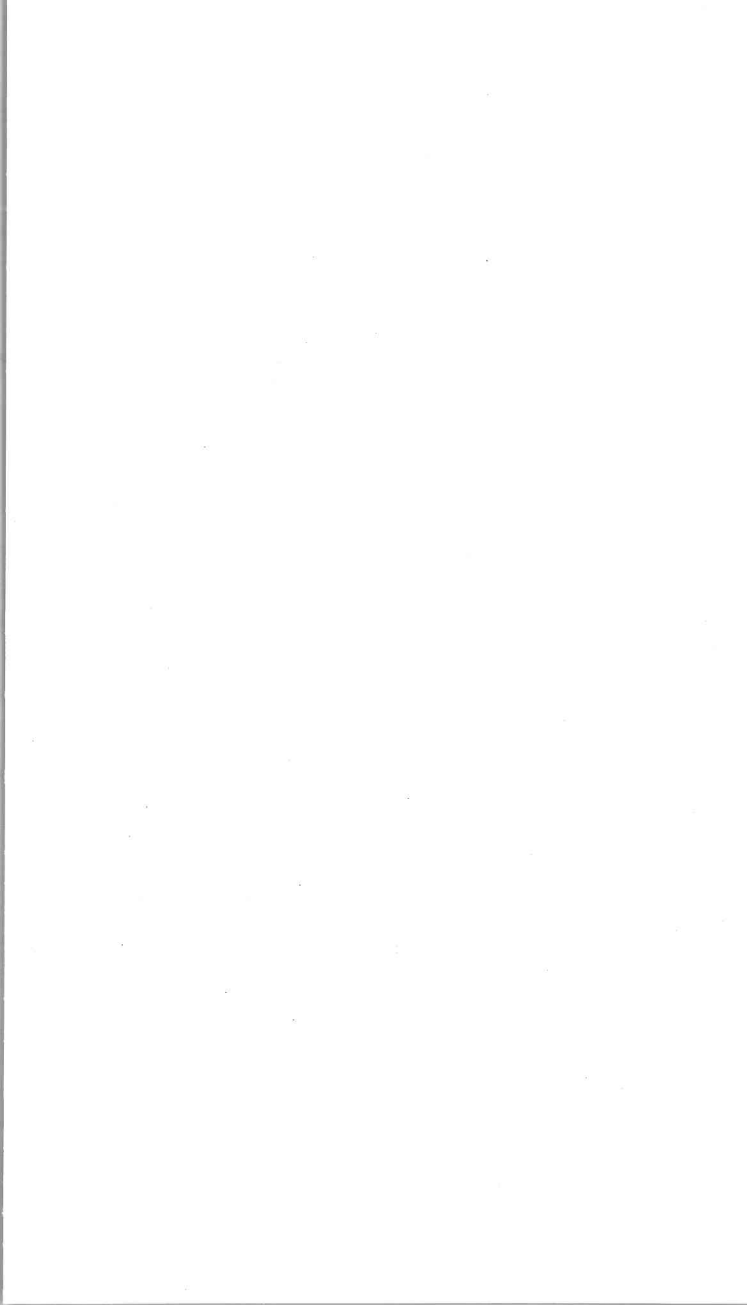
四、若干の聖書の引照をつけること。

五、序文、さんげ、付録などは省くこと。

私どもはただ、この書が祝されて、日本教化のために役立つようにと祈るのみです。

一九五一年十一月八日

内海季秋
宮坂亀雄



目次

訳者序文……………一

第一部

十のいましめ……………七

使徒信条……………一三

主の祈り……………一七

聖なる洗礼の礼典……………二三

聖壇の礼典、あるいは聖晩さん……………二六

第二部

朝夕の祈り……………二九

祝福と感謝……………三二

第 部

クリスチャン・ホームのこころえ

三三

付 録

十 戒

.....

四二

使徒信条

.....

四三

主の祈り

.....

四三

あとがき

.....

四四

マルティン・ルター『小教理問答書』

第一部

十のいましめ(1)

第一のいましめ わたしはあなたの神、主であって、あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない(2)。

これはどんな意味ですか。

答——わたしたちは、なにものにもまして、神を恐れ、愛し、信頼すべきです(3)。

1 出エジプト二〇章

2 出エジプト二〇章二—三

3 出エジプト二〇章四 マタイ四章一〇

第二のいましめ あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み

名をみだりに唱えるものを、罰しないではおかないであらう(1)。

これはどんな意味ですか。

答——わたしたちは神を恐れ、愛すべきです。それでわたしたちは、神のみ名を使ってのろ
ったり、誓ったり、魔術を行ったり、うそをついたり、だましたりしない(2)、む
しろ困った時にはいつでも神を呼び求め、神に祈り、神をほめたたえ、感謝するの
す(3)。

1 出エジプト二〇章七

2 マタイ一二章三六 詩篇一一一篇九

3 マタイ七章七以下

第三のいましめ 安息日をおぼえて、これを聖とせよ(1)。

これはどんな意味ですか。

答——わたしたちは、神を恐れ、愛すべきです。それでわたしたちは、神のみことばや説教を軽んじないで、むしろこれを聖なるものとして、喜んでいき、また学ぶのです(2)。

1 出エジプト二〇章八 創世二章二—三

2 ルカ一〇章一六

第四のいましめ あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである(1)。

これはどんな意味ですか。

答——わたしたちは、神を恐れ、愛すべきです。それでわたしたちは、両親やめうえの人を軽んじたり、おこらせたりせず、むしろその人々をとうとび、その人々につかえ、ききましたがい、愛し、またうやまうのです(2)。

1 出エジプト二〇章一一

2 ローマ一三章七以下

第五のいましめ あなたは殺してはならない(1)。

これはどんな意味ですか。

答——わたしたちは、神を恐れ、愛すべきです。それでわたしたちは、隣人のからだをきずつけたり、苦しめたりしないで、むしろ、あらゆる困難の場合に、その人を助け、また励ますのです(2)。

1 出エジプト二〇章一三

2 ルカ一〇章三〇—三七 マタイ五章二一以下

第六のいましめ あなたは姦淫してはならない(1)。

これはどんな意味ですか。

答——わたしたちは、神を恐れ、愛すべきです。それでわたしたちは、ことばにおいても、行ないにおいても、きよく正しく生き、また夫婦は互いに愛し、敬いあうのです(2)。

1 出エジプト二〇章一四

2 第一コリント六章一五以下 マタイ五章二七以下 エペソ五章二三以下

第七のいましめ あなたは盗んではならない(1)。

これはどんな意味ですか。

答——わたしたちは、神を恐れ、愛すべきです。それでわたしたちは、隣人の金や品物をうばったり、また不正な品物や取引でもうけたりしないで、むしろ彼の財産や生活を助

け、よくし、まもるのです(2)。

1 出エジプト二〇章一五

2 第二テサロニケ三章一〇 マタイ七章二二

第八のいましめ あなたは隣人について、偽証してはならない(1)。

これはどんな意味ですか。

答——わたしたちは、神を恐れ、愛すべきです。それでわたしたちは、隣人をだましたり、裏切ったり、悪口を言ったり、あるいは悪い評判をたてたりしないで(2)、むしろ彼を弁護し、彼についてよいことを語り、すべてを善意に解するのです(3)。

1 出エジプト二〇章一六

2 マタイ七章三一五

3 箴言二二章一 詩篇三四篇一三

第九のいましめ あなたは隣人の家をむさぼってはならない(1)。

これはどんな意味ですか。

答——わたしたちは、神を恐れ、愛すべきです。それでわたしたちは、隣人の遺産や家を、悪だくみをもってねらったり、あるいは法律を口実にして、それを自分のものにしたたり

などしないで、むしろその人が、それを維持することができるように促がし、仕えるのです。

1 出エジプト二〇章一七 a

第十のいましめ 隣人の妻、しもべ、はしため、牛、ろば、またすべて隣人のものをむさばってはならない(1)。

これはどんな意味ですか。

答——わたしたちは、神を恐れ、愛すべきです。それでわたしたちは、隣人の妻、しもべ、または家畜を、そのかしたり、うばったり、そむかせたりしないで、むしろ彼らとどまって、そのつとめをはたすように引きとめるのです(2)。

1 出エジプト二〇章一七 b

2 マタイ一五章一九—二〇 ローマ七章一八一—一九

神はこれらのすべてのいましめに対して、なんと言われますか。

答——神は次のように言われます。

「あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神であるから、わたしを憎むものには、父

の罪を子に報いて、三四代に及ぼし、わたしを愛し、わたしの戒めを守るものには、恵みを施して、千代に至るであろう」(1)。

これはどんな意味ですか。

答——神は、これらのいましめにそむくすべての人々をさばくと、警告なさいます。それゆえ、わたしたちは、神の怒りの前におそれおのいて、これらのいましめにそむかないようにすべきです。しかし、神は、これらのいましめを守るすべての人々に、めぐみとさいわいとを約束されます。それゆえわたしたちもまた、神を愛し、信頼し、神のいましめに従って喜んで行動すべきです(2)。

1 出エジプト二〇章五—六

2 ローマ一章一八、六章二三 エゼキエル一八章四

使徒信条

第一条 創造について わたしは天地のつくりぬし、全能の父である神を信じます。

これはどんな意味ですか。

答——わたしは、神がわたしをすべての物とともにつくられたことを信じます(1)。わたしは神がわたしに、からだと魂、目と耳と両手両足、理性とすべての感覚を与えられたこと、今もなお保たれることを信じます(2)。そのうえに神は、着物とはき物、食物と飲み物、家と屋敷、妻と子ども、田畑と家畜とすべての財産とを、からだと生活のために必要なすべてのものともども、毎日豊かにあたえ、あらゆる危害から保護し、またすべての悪から守り、防がれることを信じます(3)。そしてこれらすべては、まったくわたしの功績とか値うちとかによるのではなく、純粹に、父としての、神の慈悲とあわれみによります。これらすべてのことのゆえに、私は神に感謝し、神を讚美し、また奉仕し服従するのです。これは確かにまことです。

1 創世一章二以下

2 ヨブ三三章四

3 コロサイ一章一六

第二条 罪のゆるしについて わたしはそのひとり子、わたしたちの主イエス・キリストを信じます。主は聖霊によってやどり、おとめマリヤから生まれ、ポンテオ・ピラトのもと

に苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、よみに下り、三日目に死人のうちからよみがえり、天にのぼり、父である全能の神の右に座したまいました。主はそこからこられて、生ける人と死んだ人とをさばかれるでしょう。

これはどんな意味ですか。

答——わたしは、父から永遠の中に生まれたまことの神であって、おとめマリヤから生まれたまことの人イエス・キリストが、わたしの主であると信じます⁽¹⁾。主が金や銀をもつてではなく、ご自身のきよく尊い血、罪なくして受けた苦しみと死とをもって、失われ、罪にさだめられた人間であるわたしを、すべての罪と、死と、悪魔の力とから救い出し、あがない出し、かちとってくださいましたことをわたしは信じます⁽²⁾。こうして、わたしは主のものとなり、み国において主のもとに生き、永遠の義と純潔と救いとの中に主に仕えるのです。それは、主が死からよみがえり、永遠に生きてすべ治められるからです。これは確かにまことです。

1 ヨハネ三章一六

2 ローマ五章一 ガラテヤ二章一六 第一テモテ一章一五

第三条 きよめについて わたしは聖霊を信じます。また聖なるキリスト教会、聖徒の交わ

り、罪のゆるし、からだのよみがえり、永遠のいのちを信じます。アーメン

これはどんな意味ですか。

答——わたしは、自分の理性や能力によっては、わたしの主イエス・キリストを信じることも、みもとにくることもできないことを信じます(1)。けれども聖霊は、福音をおしてわたしを召し、その賜物をもってわたしを照らし、まことの信仰のうちにきよめ、支えてくださいました。それは聖霊が、この地上の全キリスト教会を召し集め、照らし、きよめ、そしてイエス・キリストにある、まことの、一つの信仰のうちに支えられるとおりです(2)。聖霊はこのキリスト教会においてわたしとすべての信仰者に、日ごとすべての罪をゆたかにゆるし、そして終わりの日に、わたしとすべての死者をよみがえらせ、わたしに、キリストを信じるすべての者とともに永遠の生命をあたえてくださいます。これは確かにまことです。

1 第一コリント二章一四

2 マタイ一六章一七 エペソ五章二五―二七

主の祈り(1)

呼びかけ 天にいますわれらの父よ、

これはどんな意味ですか。

答——神はこれによって、神がわたしたちのまことの父であり、わたしたちが神のまことの子であることを信じ、ちょうど愛する子どもたちが、その愛する父に求めるように、全き信頼と安心とをもって神に求めることをおすすめにあります。

1 マタイ六章九—一三

2 マタイ七章一一

第一のねがい み名があがめられ(聖とされ)ますように。

これはどんな意味ですか。

答——神の名はもちろんそれ自身聖なるものですが、しかしわたしたちはこの祈りによってわたしたちの間においても、これが聖なるものであるように祈るのです(1)。

それはどうして実現しますか。

答——それは神のことばが、正しく、純粹に教えられ、またわたしたちが神の子として、みことばに従ってきよく生活する時に、実現します。天にいます愛する父よ、このためにわたしたちを助けてください。しかし、神のことばの教えるところとちがうことを教えたり、行なったりする人は、わたしたちの間において、神の名を汚すのです。天にいます父よ、このことからわたしたちを守ってください。

第二のねがい み国がきますように。

これはどんな意味ですか。

答——たしかに神の国は、わたしたちの祈りがなくても、みずからくるものです。しかしわたしたちはこの祈りにおいて、み国がわたしたちのところにもくるようにと祈るのです。

それはどうして実現しますか。

答——それは天の父がわたしたちに聖靈を与えて、わたしたちが、神の恵みによって、聖なるみことばを信じ、この世においても、永遠の世においても、信仰ある生活をするとき

に、実現します。

第三のねがい　みこころが天に行なわれるとおり、地にも行なわれますように。

これはどんな意味ですか。

答——神のよい、恵みあるみこころは、わたしたちの祈りがなくても、たしかに実現するのです。しかしわたしたちはこの祈りにおいて、みこころがわたしたちのところでもまた実現するように祈るのです。

それはどうして実現しますか。

答——それは、悪魔やこの世の思いや、わたしたちの肉の意志があつて、わたしたちに神のみ名をあげめさせず、み国のくることをさまたげようとする、すべての悪いたくらみと意図とを、神が打ちこわし、阻止して、反対にみことばと信仰のうちに、最後までわたしたちを強め、かたく保たれるときに実現します。これこそ、よい恵みあるみこころです(1)。

1　エペソ六章一一二

第四のねがい　わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください。

これはどんな意味ですか。

答——たしかに神は、日ごとの食物を、わたしたちの祈りがなくても、すべての悪人にさえ与えてくださいます(1)。しかしわたしたちはこの祈りについて、神がこのことを知らせ、感謝をもって日ごとの食物を受けるようにしてください(2)。

1 マタイ五章四五

2 エペソ五章二〇

それでは、日ごとの食物とはどんなものですか。

答——それは肉体の栄養や、生活になくはならないすべてのものです。たとえば、食物と飲み物、着物とはきもの、家と屋敷、畑と家畜、金と財産、信仰深い夫婦、信仰深い子ども、信仰深い召使い、信仰深く信頼できる支配者、よい政府、よい気候、平和、健康、教育、名誉、またよい友だち、信頼できる隣人などです(1)。

1 マタイ六章二五以下 ヨハネ六章一一三

第五のねがい わたしたちに罪を犯す者を、わたしたちがゆるすように、わたしたちの罪をもおゆるしください。

これはどんな意味ですか。

答——わたしたちはこの祈りについて、天の父がわたしたちの罪に目をとめられないよう

に、またこの罪のゆえに、このような願いを拒まれないように願うのです。というのはわたしたちは、祈るといっても、それにふさわしいなんのねうちもなく、功績もないからです。むしろ神が恵みによってすべてのものをわたしたちに与えようとなさったのです(1)。なぜなら、わたしたちは日々多くの罪を犯し、まことに罰に値いするのみだからです。このようにわたしたちとしてもまた、わたしたちに罪を犯す者を、ここからゆるし、喜んで親切にしたいものです(2)。

1 詩篇三二篇五 マタイ六章一四―一五

2 マタイ一八章二二以下

第六のねがい わたしたちをこころみに会わせないで、

これはどんな意味ですか。

答——たしかに神は、だれでもこころみに会わせられません。しかしわたしたちはこの祈りにおいて、神がわたしたちを助け守って、悪魔やこの世やわたしたちの肉が、わたしたちをあざむいたり、またまちがった信仰や絶望や、またはその他の大きな咎とがや罪悪におちいらせないようにしてください。また、また、たとえ私たちがこころみにあっても、わたしたちが最後にはこれに打ち勝ち、勝利を得ることができるようになってください。

とを祈るのです(1)。

1 箴言一章一〇 第一テモテ四章一〇

第七のねがい 悪からお救いください。

これはどんな意味ですか。

答——わたしたちは、この祈りにおいて、ひとまとめにして、天の父がからだと魂、財貨と名譽にかかわるすべてのたぐいの悪から、わたしたちを救い、そしてついにはわたしたちの臨終にさいして、祝福された終わりを与え、恵みをもって悲しみ多いこの世から、天へと受けいれてくださることを祈るのです(1)。

1 イザヤ四八章一〇 黙示三章一 第一コリント一二章九

結び 国と、力と、栄えとは、かぎりなくあなたのものだからです。アーメン(1)

これはどんな意味ですか。

答——わたしが確信しているべきことは、これらの祈りが天の父のみこころにかない、きき入れられるということです。なぜなら、神ご自身がこのように祈れとわたしたちにお命じになり、その上、きき入れると、わたしたちに約束なされたからです(2)。アーメン
ということは、はい、そのようになるのだ、という意味です。

- 1 詩篇一四五篇一三
- 2 ヨハネ一六章二三

聖なる洗礼の礼典

第一 洗礼とは何ですか。

答——洗礼とは、単なる水だけではなく、神の命令に含まれ、神のみことばと結びついた水です。

神のそのようなことばはどれですか。

答——わたしたちの主キリストが、マタイによる福音書の終わりに言われた次のみことばです。

「あなたがたは行って、すべての国民を教え、父と子と聖霊との名によって、彼らに洗礼をほどこせ」(1)。

- 1 マタイ二八章一九

第二 洗礼は何を与え、どんな役に立ちますか。

答——それは、罪のゆるしをもたらし、死と悪魔から救い出し、信じるすべての者に、永遠の救いをあたえます。神のみことばと約束とが宣べているとおりです。

神のそのようなことばと約束とは、どれですか。

答——わたしたちの主キリストが、マルコによる福音書の終わりに言われた次のみことばです。

「信じて洗礼を受けるものは救われる。しかし信じない者は、罪に定められる」(1)。

1 マルコ一六章一六

第三 どうして水が、このような大きな事をすることができますか。

答——いうまでもなく、水がそのようなことをするのではなく、水とむすびつき、水とともにある、神のことばと、水とともにある神のこのようなことばを信じる信仰がするので、なぜなら、みことばなしには、水は単なる水であって、洗礼ではないからです。しかし神のことばとともにあるとき、それは洗礼です。すなわち、それは恵み深い生命の水であって、「聖霊による新しい生まれかわりの洗い」なのです。聖パウロがテトスへの手紙三章に、次のように言っているとおりです。

「わたしたちの行なった義のわざによってではなく、ただ神のあわれみによって、再生の洗いを受け、聖霊により新たにされて、わたしたちは救われたのである。この聖霊は、わたしたちの救い主イエス・キリストをとおして、わたしたちの上に豊かに注がれた。これは、わたしたちが、キリストの恵みによって義とされ、永遠のいのちを望むことによつて、み国をつぐ者となるためである。このことばは確實である」(1)。

1 テトス三章五—八

第四 このような水の洗礼は、なにを意味しますか。

答—それは、わたしたちのうちにある古いアダムが、日ごとの悔いと、ざんげとによつて、すべての罪と悪い欲ともにおぼれ死に、かえつて、日ごとに新しい人が現われ、よみがえり、神のまえに、義と純潔とをもつて永遠に生きるということを意味します。

それはどこに書かれていますか。

答—聖パウロは、ローマ人への手紙の六章に次のように言っています。

「わたしたちは、キリストとともに、洗礼によつて死のうちに、彼と共に葬られた。それは、キリストが父の栄光によつて、死人の中からよみがえつたように、わたしたちもまた、新しいのちに生きるためである」(1)。

聖壇の礼典、あるいは聖晩さん

第一 聖壇の礼典とはなんですか。

答——それはわたしたちの主イエス・キリストの真のからだ、真の血であって、わたしたちキリスト者が、パンとぶどう酒のかたちで食し飲むようにと、キリストご自身お定めになつたものです。

それはどこに書かれていますか。

答——聖なる福音書記者マタイ、マルコ、ルカ、および聖パウロは次のように書いています。

「主イエスは渡される夜、パンをとり、感謝し、彼らに与えて言われた、『とって食せよ。これはあなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、これを行ないなさい』、食事ののち、同じように杯をとり、感謝し、彼らに与え

て言われた、『みなこの杯から飲め。これは、罪のゆるしを得させるようにと、あなたがたのために流す、わたしの血による新しい契約である。飲むたびに、わたしの記念として、これを行ないなさい』(1)。

1 第一コリント一章二三―二五 マタイ二六章二六―二八

マルコ一四章二二―二五 ルカ二二章一六―二〇

第二 このような飲食が、どんな役に立ちますか。

答——それは、「これは、罪のゆるしを得させるようにと、あなたがたのために与えられ、流される」(1)とのみことばによって示されています。すなわちこの礼典において、このみことばをおして、わたしたちに、罪のゆるしと、生命と救いとが与えられます。それは罪のゆるしのある所に、また生命と救いとがあるからです。

1 ルカ二二章一九―二〇 マタイ二六章二八

第三 肉体的な飲食が、どうしてこのような大きなことをすることができますか。

答——もちろん、それをするのは飲食ではなく、ここにしるされた「これは、罪のゆるしを得させるようにと、あなたがたのために与えられ、流される」とのみことばです。このみことばは、肉体的な飲食とともに、礼典中の主要な部分です。そしてこのみことばを

信じる者は、このみことばが語り宣言すること、すなわち罪のゆるしを得るのです。

第四 だが、このような礼典にあずかるねうちがありますか。

答——断食や、肉体的準備をすることは、たしかによい外的な訓練です。しかし、「これは罪のゆるしを得させるようにと、あなたがたのために与えられ、流される」とのみことばに対して、信仰をもつ者こそ、まさしく、ねうちのある、ふさわしい人です。しかしこのみことばを信じず、疑う者は、ねうちの無い、ふさわしくない人です。「あなたがたのために」というみことばは、純粹に信じる心を要求するからです。

第二部

一家の主人が教えなければならぬ朝夕の祈り

朝の祈り

毎朝、起きて、次のように言いなさい。

父と子と聖霊とのみ名によって。アーメン

そして、ひざまずくか、または立って、「使徒信条」と「主の祈り」をとなえ、もし望むならば、つぎの短い祈りをささげる。

天の父よ、この一夜、あらゆるわざわいと危険から、わたしをお守りくださったことを、あなたの愛するみ子、イエス・キリストによって、感謝いたします。この日もまた、罪とすべての悪とから、わたしを守り、わたしのすべての行ないと生活とが、み旨にかなうように

お祈りいたします。わたしのからだも、魂も、すべてをあなたのみ手におまかせします。どうか悪い仇が、わたしに力をふるうことがないように、聖なる天使を、わたしといっしょにおいでください。アーメン

そして讚美歌をうたい、十のいましめ、あるいは自分の信仰の示すところにしたがって、喜んで自分の仕事につく。

夕べの祈り

毎夜、床につく時、次のように言いなさい。

父と子と聖霊とのみ名によって。アーメン

そして、ひざまずくか、または立って、「使徒信条」と「主の祈り」をとなえ、もし望むならば、つぎの短い祈りをささげる。

天の父よ、この一日をめぐみのうちにお守りくださったことを、あなたの愛するみ子、イエス・キリストによって感謝いたします。悪いことをしたわたしのすべての罪をゆるし、この夜も恵みのうちにお守りください。わたしのからだも、魂も、すべてをあなたのみ手にお

まかせします。どうか悪い仇が、わたしに力をふるうことがないように、聖なる天使を、わたしといっしょにおいてください。アーメン

そして、ただちに、安らかにねむりにつく。

一家の主人が教えなければならぬ祝福と感謝

祝福（食前の祈り）

子どもたちや雇い人たちは、敬虔な心をもって食卓につき、手を組み合わせて、次のようになさる。

主よ、すべての者の目は、あなたを待ち望んでいます。あなたは時にしたがって、彼らに食物を与えられます。あなたはみ手を開いて、みこころのままに、すべての生けるものの願いをかなえられます。

そして「主の祈り」と、次の祈りを捧げる。

天の父、主なる神よ、わたしたちと、あなたの豊かな恵みによってうけるこれらの賜もの

とを、祝福してくださいませよう、わたしたちの主、イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

感謝（食後の祈り）

食事のあとで、また同じようにし、敬虔な心をもって、手を組み合わせ
て、次のように、となえる。

主に感謝せよ、主は恵みふかく、そのいつくしみは、とこしえに絶えることがない。主はすべての生き物に食物を与え、また鳴き求める小がらすなど、けものにえさを与えられる。主は馬の力を喜ばれず、人の足をよみせられない。主は、主を恐れる者と、そのいつくしみを待ち望む者とをよみせられる。

そして「主の祈り」と、次の祈りをささげる。

とこしえに生きて、おおさめになる主なる神よ、わたしたちの主イエス・キリストによって、あなたのすべての恵みを感謝いたします。アーメン

第三部

クリスチャン・ホームのころえ

さまざまの聖なる務めおよび地位にある人々のための、聖書からの抜粋で、それぞれの仕事や、つとめを、これによって行なうべきもの。

監督、牧師および説教者に対して

「さて、監督は、非難のない人で、ひとりの妻の夫であり、自らを制し、慎しみ深く、礼儀正しく、旅人をもてなし、よく教えることができ、酒を好まず、乱暴でなく、寛容であつて、人と争わず、金に淡泊で、自分の家をよく治め、謹厳であつて、子どもたちを従順な者に育てている人でなければならぬ。彼はまた、信者になつて間もないものであつてはなら

ない。そうであると、高慢になって、悪魔と同じ審判を受けるかも知れない」(第一テモテ三章二―四、六)。「監督は教えにかなった信頼すべき言葉を守る人でなければならぬ。それは、彼が健全な教えによって人をさとし、また、反対者の誤りを指摘することができるためである」(テトス一章九)。

教えを聞く者の牧師に対するつとめ

「それで、その同じ家に留まっただけで家の人が出してくるものを飲み食いしなさい。働き人が、その報いを得るのは当然である。家から家へと渡り歩くな」(ルカ一〇章七)。「それと同様に、主は、福音を宣べ伝えている者たちが福音によって生活すべきことを、定められたのである」(第一コリント九章一四)。「みことばを教えてもらう人は、教える人と、すべて良いものを分け合いなさい。まちがってはいけない。神は侮られるようなかたではない。人は自分のまいたものを刈り取ることになる」(ガラテヤ六章六―七)。「よい指導をしている長老、特に宣教と教えとのために労している長老は、二倍の尊敬を受けるにふさわしい者である。聖書は、『穀物をこなしている牛に、くつこをかけてはならない』また『働き人がその報酬を受けるのは当然である』と言っている」(第一テモテ五章一七―一八)。「兄

弟たちよ、わたしたちはお願いする。どうか、あなたがたの間で勞し、主にあってあなたがたを指導し、かつ訓戒している人々を重んじ、彼らの働きを思つて、特に愛し敬いなさい」(第一テサロニケ五章一二)。「あなたがたの指導者たちの言うことを聞きいれて、従いなさい。彼らは、神に言いひらきをすべき者として、あなたがたのたましいのために、目をさましている。彼らが嘆かないで、喜んでこのことをするようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にならない」(ヘブル一三章一七)。

この世の權威について

「すべての人は、上に立つ權威に従うべきである。なぜなら、神によらない權威はなく、おおよそ存在している權威は、すべて神によって立てられたものだからである。したがって權威に逆らう者は、神の定めにもむく者である。そむく者は、自分の身にさばきを招くことになる。いったい、支配者たちは、善事をする者には恐怖でなく、悪事をする者にこそ恐怖である。あなたは權威を恐れなことを願うのか。それでは、善事をするがよい。そうすれば、彼からほめられるであろう。彼はあなたに益を与えるための神のしもべなのである。しかし、もしあなたが悪事をすれば、恐れなければならぬ。彼はいたずらに劍を帯びている

のではない。彼は神のしもべであつて、悪事を行なう者に対しては、怒りをもって報いるからである」(ローマ二三章一一四)。

権威の下にある国民のつとめ

「彼らは『カイザルのです』と答えた。するとイエスは言われた、『それでは、カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい』(マタイ二二章二一)。「だから、ただ怒りをがれるためだけでなく、良心のためにも従うべきである。あなたがたが貢を納めるのも、また同じ理由からである。彼らは神に仕える者として、もっぱらこの務めに携わっているのである。あなたがたは、彼らすべてに対して、義務を果たしなさい。すなわち、貢を納むべき者には貢を納め、税を納むべき者には税を納め、恐るべき者は恐れ、敬うべき者は敬いなさい」(ローマ一三章五―七)。「そこで、まず第一に勧める。すべての人のために、王たちと上に立っているすべての人々のために、願いと、祈りと、とりなしと、感謝とをさげなさい。それはわたしたちが、安らかで静かな一生を、真に信心深くまた謹厳に過ごすためである。これは、わたしたちの救い主である神のみまえに良いことであり、また、みこころにかなうことである」(第一テモテ二章一一二)。「あなたは彼らに勧めて、支配者、権

威ある者に服し、これに従い、いつでも良いわざをする用意があり」(テトス三章一)。「あなたがたは、すべて人の立てた制度に、主のゆえに従いなさい。主権者としての王であろうと、あるいは、悪を行なう者を罰し善を行なう者を賞するために、王からつかわされた長官であろうと、これに従いなさい」(第一ペテロ二章一三—一四)。

夫に対して

「夫たる者よ。あなたがたも同じように、女は自分よりも弱い器であることを認めて、知識に従って妻と共に住み、いのちの恵みを共どもに受け継ぐ者として、尊びなさい。それは、あなたがたの祈りが妨げられないためである」(第一ペテロ三章七)。「夫たる者よ、妻を愛しなさい。つらくあたってはいけない」(コロサイ三章一九)。

妻に対して

「妻たる者よ。主に仕えるように自分の夫に仕えなさい」(エペソ五章二三)。「たとえば、サラはアブラハムに仕えて、彼を主と呼んだ。あなたがたも、何事にもおびえ臆することなく善を行なえば、サラの娘たちとなるのである」(第一ペテロ三章六)。

両親に対して

「父たる者よ。子どもをおこらせないで、主の薫陶と訓戒とによって、彼らを育てなさい」
(エペソ六章四)。「父たる者よ、子どもをいらだたせてはいけけない。心がいじけるかも知れないから」(コロサイ三章二一)。

子に対して

「子たる者よ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことである。『あなたの父と母とを敬え』。これが第一の戒めであって、次の約束がそれについている。『そうすれば、あなたは幸福になり、地上でながく生きながらえるであろう』」(エペソ六章一―二)。

しもべ、しもめ、雇い人、および労働者に対して

「しもべたる者よ。キリストに従うように、恐れおののきつつ、真心をこめて、肉による主人に従いなさい。人にへつらおうとして目先だけの勤めをするのでなく、キリストのしもべとして心から神の御旨を行ない、人ではなく主に仕えるように、快く仕えなさい。あなた

がたが知っているとおり、だれでも良いことを行なえば、しもべであれ、自由人であれ、それに相当する報いを、それぞれ主から受けるであろう」(エペソ六章五―八)。

雇い主に対して

「主人たる者よ。しもべたちに対して、同様にしなさい。おどすことを、してはならない。あなたがたが知っているとおり、彼らとあなたがたとの主は天にいますのであり、かつ人をかたより見ることを行なうべきではないのである」(エペソ六章九)。

一般の青年に対して

「若い人たちよ。長老たちに従いなさい。また、みな互いに謙遜を身につけなさい。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである。だから、あなたがたは、神の力強いみ手の下に、自らを低くしなさい。時が来れば神はあなたがたを高くしてくださるであろう」(第一ペテロ五章五―六)。

やもめに対して

「真にたよりのない、ひとり暮らしのやもめは、望みを神において、日夜、たえず願いと祈りとに専心するが、これに反して、みだらな生活をしているやもめは、生けるしかばねにすぎない」(第一テモテ五章五—六)。

一般の人々に対して

「そのほかに、どんな戒めがあっても、結局『自分を愛するようにあなたを愛せよ』というこの言葉に帰する」(ローマ一三章九)。「すべての人々のために、願いと、祈りと、とりなしと、感謝とをささげなさい」(第一テモテ二章一)。

みんなの者がその教えを気をつけて学ぶなら、全家庭は幸福に暮らすことができるであろう。

付録

十戒

- 第一戒 われは主たるなんじの神なり。なんじわれのほか、何ものをも神とすべからず。
- 第二戒 主たるなんじの神の名を、みだりに口にあぐべからず。神はおのれの名をみだりに口にあぐる者を、罰せではおかざるべし。
- 第三戒 安息日をおぼえて、これをきよくすべし。
- 第四戒 なんじの父母を敬え、こはなんじの神エホバの、なんじにたもう所の地に、なんじの生命の長からんためなり。
- 第五戒 なんじ殺すなかれ。
- 第六戒 なんじかんにんするなかれ。
- 第七戒 なんじ盗むなかれ。

第八戒 なんじその隣人に対して、いつわりのあかしを立つるなかれ。

第九戒 なんじその隣りの家をむさぼるなかれ。

第十戒 なんじの隣人の妻、およびそのしもべ、しもめ、牛、ろ馬、ならびに、すべてなんじの隣人のもちものをむさぼるなかれ。

使徒信条

われは天地のつくり主、全能の父なる神を信ず。

われはそのひとり子、われらの主イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府よみにくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に上り、全能の父なる神の右に座したまえり。かしくよりきたりたまいて、生ける人と死にたる人とを、さばきたまわん。

われは聖霊を信ず。また聖なるキリスト教会・聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。アーメン

主の祈り

天にまします、われらの父よ。

願わくは、み名をあがめさせたまえ。

み国を来たらせたまえ。

みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。

われらの日ごとのかてを、きょうも与えたまえ。

われらに罪を犯す者をわれらがゆるすごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みに会わせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン

あとがき

この訳書も一九八〇年に改訂新版を出してから多くの歳月を経ました。この間、多くの人々に愛読され、信仰を深めるために用いられて来ました。

ところで、日本福音ルーテル教会は一九九三年に宣教百年を迎え、いよいよ宣教二世紀に入りました。ルーテル教会は百年の歴史を、積極的に、また批判的に継承しつつ、新しい歩みを始めたわけです。教会は「主より与えられた信仰を伝える」という大きな課題を与えられています。二代目、三代目のルーテル教会員が続々と誕生し、教会を背負っていく時代になり、「信仰の継承」ということが教会の基本的な課題になっています。

このような時、ルターが、親が子どもたちに信仰を伝えるという目的をもって書いた「小教理問答書」の重要性はいよいよ強くなっているといえます。

小冊子でありながら、その内容は「福音的教会の信仰」を深い洞察と情熱をもってえがいた豊かなものであることは言をまちません。まさに古典的な信仰入門書あるいは教育書と言えましょう。

この書物がただルーテル教会内部にとどまらず、多くの教会で用いられている事実は日

本の教会全体が共通の課題を負っていることを示すものであり、また同時にこの書物がルーテル教会の大切な遺産であると共に、キリスト教会全体に奉仕することの出来るエキューメンカルなものであることがわかります。

さて、長い間ルーテル教会の文書活動を担ってきた「聖文舎」が解散し、教会は自らの責任で出版活動を行うことになりました。このような時、何よりも先ず「小教理問答書」の出版が急がれています。

新共同訳聖書を用いる教会が多くなってきた状況で、聖書の引用文の訂正など多くの点において更に改訂すべき点を残しておりますが、必要が急であることを考え、改訂を加えず、そのままの形で出版することにしました。

この翻訳に多くの先達の努力がありました。敬意の念をもって心に留めたいと思います。またこの出版を快く承認して下さいました内海季秋氏、宮坂亀雄夫人に心からの感謝を捧げます。

この小冊子が「信仰養育」のために、また「伝道」のために広く用いられることを心から願います。

内海 望

小教理問答書

1951年12月20日第1版発行 定価400円（本体381円）

1980年6月10日改訂新版

1990年10月15日3版

2012年1月10日4版3刷

著者 マルティン・ルター

訳者 内海季秋、宮坂亀雄

発行所 日本福音ルーテル教会

162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町1-1

電話03-3260-8631

精文堂印刷

学びの手引き

『小教理問答書』を学ぶ手引きは、いつの時代にも、時と所に
かなったものが必要です。今、教会の本箱にあるようなものを
拾ってみました。

山内六郎『信仰の手引き』聖文舎 同種のスタンプの訳者でもあった筆者が、長年の経験
からまとめたもので、これによつて戦後洗礼教育を受けた人が多いはずです。名著です。
『小教理問答書の解説』コンコーディア社 日本ルーテル教団の日本伝道開始後、間もな
く出版された、手堅い解説です。

宝珠山幸郎他『教理入門』聖文舎 「大伝道」(一九六五〜六七)の機会に共同執筆された
ものです。『小教理問答』を学ぶ前の人のために書かれた『信仰入門』と対でした。

徳善義和他『現代の信仰に生きる―信徒のための「教理問答」解説』聖文舎 一九八四 子
の問い、親の答えという角度から、答える信徒となるために、当時の九州教区のチーム
とともに書いた、ユニークな試みです。この角度で徳善が試みた私訳が近く『宗教改革
著作集』第一四巻 教文館に収められて出版されます。 一九九四年七月、徳善義和





定価400円(本体381円)